

有本真紀教授 履歴

【学歴】

- 1977 年 3 月 東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校卒業
 1977 年 4 月 東京藝術大学音楽学部器楽科入学
 1981 年 3 月 同卒業
 1990 年 4 月 東京藝術大学大学院音楽研究科音楽教育専攻修士課程入学
 1993 年 3 月 同修了

【学位】

- 1993 年 3 月 修士（音楽）（東京藝術大学）

【職歴】

- 1993 年 4 月 東京藝術大学音楽学部助手（～1996 年 3 月）
 1996 年 4 月 立教大学文学部専任講師（～1998 年 3 月）
 1997 年 10 月 日本看護研修学校非常勤講師「教育評価」担当（～1998 年 3 月）
 1998 年 4 月 立教大学文学部助教授（～2005 年 3 月）
 2001 年 4 月 日本女子大学人間社会学部非常勤講師「音楽実技」担当（～2002 年 3 月）
 2005 年 4 月 立教大学文学部教授（～2024 年 3 月）
 2005 年 4 月 日本女子大学人間社会学部非常勤講師「音楽実技」担当（～2006 年 3 月）
 2019 年 4 月 東京大学大学院教育学研究科客員教授「芸術教育の歴史社会学」「芸術教育学論文指導」担当（～2022 年 3 月）
 2022 年 4 月 奈良女子大学文学部非常勤講師「子ども文化学概論」担当（～2023 年 3 月）

【賞】

- 1973 年 1 月 毎日放送子ども音楽コンクール西日本大会第二位
 1986 年 1 月 音楽鑑賞教育振興会第 18 回音楽教育研究論文優秀賞

【学会および社会における活動】

- 1987 年 4 月 日本音楽教育学会会員
 1990 年 4 月 日本教育心理学会会員（～2010 年 3 月）
 1993 年 6 月 教育目標・評価学会会員（～2019 年 3 月）
 1997 年 6 月 日本教育学会会員
 1998 年 7 月 音楽教育史学会会員（～2017 年 5 月）
 2002 年 4 月 日本音楽教育学会理事（～2005 年 3 月）
 2005 年 4 月 日本音楽教育学会事務局長（～2008 年 3 月）
 2005 年 9 月 世田谷市民大学人間コース講師「音楽・体験・記憶」担当（～2005 年 12 月）
 2006 年 4 月 音楽教育史学会運営委員（～2008 年 3 月）

2008年4月	日本音楽教育学会編集委員（～2012年3月）
2008年6月	日本教育社会学会会員
2010年4月	日本音楽教育学会副会長（～2014年3月）
2014年4月	日本音楽教育学会編集委員会副委員長（～2016年3月）
2014年4月	音楽教育史学会運営委員（～2017年5月）
2015年11月	文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会 教育学・保育専門委員会委員（～2018年10月）
2016年4月	日本音楽教育学会編集委員会委員長・理事（～2018年3月）
2016年4月	日本音楽教育学会学会賞選考委員（～2020年3月）
2018年4月	日本音楽教育学会副会長（～2020年3月）
2021年11月	日本教育社会学会編集委員
2022年4月	日本音楽教育学会副会長

主要業績

【単著】

『卒業式の歴史学』（単著）講談社，2013年3月

【共著・共編著】

有本瞳日月・有本真紀『かさこじぞう』総合音楽研究会，1987年1月

阪井恵・有本真紀『ハートフルメッセージ 初等音楽科教育法』明星大学出版部，2003年5月

阪井恵・有本真紀・小暮朋佳・中里南子『五線譜の約束』明星大学出版部，2006年1月

有本真紀・阪井恵・山下薫子編『教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社，

2008年11月

有本真紀・阪井恵・津田正之編『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』教育芸術社，

2019年1月

【論文】

・「総合音楽活動の実践」『音楽鑑賞教育』音楽鑑賞教育振興会，1986年1月，pp.112-120

・「豊かな音楽性を目指す総合音楽の創造と実践」『音楽教育研究報告』第3号，音楽鑑賞教育振興会，1988年11月，pp.1-70

・佐野靖・小山真紀「新教科モデルの特質と問題点—その内容分析を通して」『季刊音楽教育研究』1993年10月，pp.2-16

・「音楽科の評価と国際理解」河口道朗編『音楽における国際理解教育』エムティ出版，1994年3月，pp.83-91

・「音楽科における自己評価の重要性—学習者の視点に立つ音楽科の評価をめざして」『音楽教育学』第23巻3号，日本音楽教育学会，1994年3月，pp.13-24

- ・「音楽科の評価研究における問題点」『教育目標・評価学会紀要第』4号, 1994年10月, pp.55-63
- ・「音楽科教育における評価の観点に関する考察—歴史的検討と今後の課題」『東京藝術大学音楽学部紀要』第20集, pp.37-52, 1995年3月
- ・「『自己評価』再考—自己評価を中核とする指導と評価の理念」『音楽教育学』第25巻4号, 1996年3月, pp.149-152
- ・「合科学習・教科関連と唱歌科(芸能科音楽)」『音楽教育研究ジャーナル』第4号, 1996年4月, pp.13-28
- ・「『新しい学力観』と評価を問う」『音楽科は何をめざしてきたか?』音楽之友社, 1996年11月, pp.126-134
- ・「評価を考える—音楽科の現状を踏まえて」『立教大学文学部教育学科年報』第40号, 1997年3月, pp.161-169
- ・「評価を考える」『音楽教育論』教育芸術社, 1997年4月, pp.231-239
- ・「評価及び音楽の授業に関するイメージの研究—教職学生と教師を対象とした比喩作成課題による調査を用いて」『音楽教育学』第27巻1号, 1997年6月, pp.37-52
- ・「教育実践と教育言説のあいだ—教師が言説と対するとき」浜野政雄監修『音楽教育の研究』音楽之友社, 1999年9月, pp.112-120
- ・「唱歌の描いた『父・母』(1)—教科書の歌詞分析を通して」『立教大学教育学科研究年報』第47号, 2004年3月, pp.25-41
- ・「唱歌の描いた『父・母』(2)—クライマックス性に着目して」『立教大学教育学科研究年報』第48号, 2005年3月, pp.1-18
- ・「『絶対評価』から相対評価へ」, 「到達度評価の提唱と意義」, 「指導要録の問題性」『音楽の教授・学習過程』(音楽教育史論叢第Ⅲ巻) 開成出版, 2005年12月, pp.262-309
- ・「戦後60年・授業と評価の動向—『指導と評価の一体化』を手がかりに」『音楽教育戦後60年』開成出版, 2006年3月, pp.245-255
- ・「卒業式の唱歌—共同記憶のための聖なる歌」『「感情」の社会化に関する総合的研究: 「文化としての涙」の形成過程に着目して』平成16年度~平成18年度科学研究費補助金基盤研究報告書(研究代表者 北澤毅), 2007年3月, pp.59-73
- ・「卒業式の成立と定着過程—明治期前半の教育雑誌・学校日誌を通して」『立教大学教育学科研究年報』第51号, 2008年3月, pp.5-20
- ・「明治前期・中期における卒業証書授与式の意義—式手順の検討を通して」『立教大学教育学科研究年報』第52号, 2009年3月, pp.5-29
- ・「校門の外をめざした学校唱歌—卒業式による広報戦略」『大衆文化』2号, 2009年9月, pp.44-58
- ・「明治中期以前の卒業式次第における唱歌—卒業式に対する観念の成立過程解明へ向けて」, 日本音楽教育学会編『音楽教育学の未来』音楽之友社, 2009年10月, pp.60-69
- ・「各教科・領域等 音楽」教育目標・評価学会編『「評価の時代」を読み解く—教育目標・評価研究の課題と展望』日本標準, 2010年12月, pp.96-105
- ・「儀式/道徳教育と唱歌—「同情」の作動に着目して」『音楽教育実践ジャーナル』vol.8,no.2, 日本音楽教育学会, 2011年3月, pp.14-21

- ・「明治期学校表簿にみる児童理解実践—『個性調査簿』の成立過程」『立教大学教育学科研究年報』第55号, 2012年3月, pp.5-26
- ・「『感情の共同体』の創出—明治期における小学校卒業式の変容」北澤毅編『文化としての涙—感情経験の社会的探究』勁草書房, 2012年12月, pp.158-188
- ・日本近代における〈家庭の学校化〉「I 家庭の管理装置としての学校教育—明治期・大正期における『学校と家庭との連絡』」『立教大学教育学科研究年報』第57号, 2014年3月, pp.5-26
- ・鈴木慎一郎・有本真紀・菅道子・村尾忠廣「有本瞳日月の鳥取師範学校卒業論文に見る和音感教育—教育実習におけるその実践に注目して」鳥取大学地域学部『地域学論集』第10巻第3号, 2014年3月, pp.113-133
- ・「音楽科と学校行事」加藤富美子編『新・教職課程シリーズ教科教育編 第5巻 音楽科教育』一藝社, 2015年5月, pp.53-62
- ・「『個性調査簿』による児童理解実践の様相—昭和初期以前の一次史料の検討」『立教大学教育学科研究年報』第59号, 立教大学教育学科研究室, pp.75-100, 2016年3月
- ・「感情教育のかたち—卒業式の変遷を通して」『α-Synodos』vol.215 (特集:感情), 2017年3月, pp.48-64
- ・「学校儀式と身体—教育勅語と唱歌の共存関係を中心に」日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ編『教育勅語と学校教育—教育勅語の教材使用問題をどう考えるか』世織書房, 2018年3月, pp.74-94
- ・「音楽文化から見る日本近代」歴史教育者協議会『歴史地理教育』882号, 特集「明治150年を問いただす」, 2018年7月, pp.120-125
- ・「小学校1年生の歴史社会学—明治期・大正期における『初学年』の取扱いに着目して」『立教大学教育学科研究年報』第62号, 2019年2月, pp.35-56
- ・有本真紀・嶋田由美・権藤敦子「儀式唱歌《勅語奉答》の位置付け—式次第と《勅語奉答》への言及に着目して」『立教大学教育学科研究年報』第64号, 2021年3月, pp.161-182
- ・嶋田由美・有本真紀・権藤敦子「2種の儀式唱歌《勅語奉答》をめぐる論考—小学校唱歌教授細目から読み解く教育現場での《勅語奉答》の扱い」『学習院大学 教育学・教育実践論叢』第7号, 2021年3月, pp.71-86
- ・「卒業式歌・卒業ソングの同時代史」歴史教育者協議会『歴史地理教育』No.927, 特集「音楽のきこえる社会科の授業」, 2021年7月, pp.120-125
- ・権藤敦子・嶋田由美・有本真紀「《勅語奉答》と唱歌教育—雑誌記事を中心に」『広島大学大学院人間社会科学研究科紀要 教育学研究』第2号, 2021年12月, pp.19-28
- ・「家庭と学校の関係小史—「学校的社会化」の視点から」『早稲田文学』通巻1037号 (増刊号「家族」), 2022年3月, pp.252-264
- ・「近代日本の家庭と『学校的社会化』—小学校入学をめぐる家庭と学校の攻防」科研報告書『学校的社会化の歴史と現在2:「児童」と「学校」の再帰性』(2018年度-2022年度 科学研究費補助金基盤研究 (B) 課題番号 18H00990, 研究代表者 北澤毅, 2017年度-2023年度 科学研究費補助金基盤研究 (C), 課題番号 17K04712, 研究代表者 有本真紀) 2023年3月, pp.3-22